



JUN INAGAWA (ANARCHY IN AKIBA) 2021
UVインクジェットプリント(StareReap 2.5 プリント)、ペイントマーカー、PVC、アルミマウント
100 x 50 cm

JUN INAGAWA MAD MAGICAL ORCHESTRA

会場：RICOH ART GALLERY

会期：2021年9月25日（土）～ 2021年10月16日（土）

時間：12：00～19：00 ※最終日18：00 終了

休廊日：日・月・祝

※ 新型コロナウイルス感染防止に伴う政府・東京都の方針により、営業時間・会期は前後する可能性があります。

この度、リコーアートギャラリーでは JUN INAGAWA の個展「MAD MAGICAL ORCHESTRA」を開催いたします。JUN INAGAWA は、“アニメ”や“オタク”カルチャーとストリートカルチャーや音楽、サブカルチャーを元に独自の世界観に基づき描いています。「パルコ PARCO」をはじめ、「パラダイスParadis3」や「MEDICOM TOY(メディコムトイ)」「銀杏BOYZ」などとのコラボレーションでも注目を集めてきた INAGAWA は、オリジナルアニメ『魔法少女マジカルデストロイヤーズ』(アニメーション制作:バイブリーアニメーションスタジオ)において原案を担当します。本展では、INAGAWA の生み出したキャラクターやモチーフなど作家が志向する世界をリコーの「StareReap」で表現した、ユニーク作品・エディション作品を含む 20 点もの新作を発表いたします。

JUN INAGAWA は 1999 年生まれ、中学卒業以降アメリカで生活するなか、2016 年からイラストを描き始め SNS で発表してきました。日本で美少女アニメや少年マンガの洗礼を受け、アメリカで音楽やスケートカルチャー、テクノなどサブカルチャーを中心にストリートの文化を身近に感じてきた INAGAWA は、それらを同時に自分の世界観として描くことに何の躊躇もありませんでした。作品は SNS を通じて徐々に注目され始め、エイサップ・バリ (A\$AP Bari) からまかされた「ヴィーロン (VLONE)」のポップアップの壁画の仕事は大きな転機となりました。以降、国内外でコラボレーションや個展を重ねていきます。

自分の作品はオタクカルチャーとストリートカルチャーの融合とよくいわれるのですが、僕のなかではごく自然にふたつの文化があっただけなんです。だからそうしたジャンル分けに多少違和感もあります。自分の世界観は自分独自のもの。

あえていうなら JUN INAGAWA というジャンルでありたいと思うんです。

— JUN INAGAWA

好きなものを語るときにオタクもストリートも同じ熱量があるのだと JUN INAGAWA は話します。美少女、魔法、オタク、ダークファンタジー、テクノ、デジタルハードコア、ヒップホップ、パンクロック、スケートボード、アキハバラ、LA..... たまたま自分が好きで身近になじんでいる世界がそれだっただけなのだ。

僕はただ、見ているだけで音楽が聴こえてくるものを描きたいと思っていて、音楽からキャラクターデザインや構図に取り込んでいきます。で、描いていくうちにいらぬものが見えてくる。次にいらぬ線を消して行ってシンプルにしていくんです。

それって生きてゆく上ですごく大事なことでもありますし。

— JUN INAGAWA

図像を一部切り取って組み合わせたり、再編集したりする表現といえば、かつて音楽シーンの影響を受け、アートの表現としてひとつの潮流をつくった「サンプリング」「カットアップ」「リミックス」などが思い起こされます。

しかし INAGAWA のそれは、取り入れたものを咀嚼し、新しい表現として良いものだけを残していくことを繰り返すなかで、新しい図像として成り立たせます。それは従来のサンプリング手法と異なり、形と色の在り方にクールに、そして大胆にアプローチした結果といえるでしょう。

僕はいろいろな人とコラボレーションしてきました。

デザイナーの石岡瑛子さんを僕は尊敬していて、彼女はさまざまな仕事でさまざまな表現に挑戦しているのに、全体を通すと石岡瑛子の仕事として一本の筋が見えています。

僕もトータルすると僕の仕事だとわかってもらえるように
していきたいと思っています。

— JUN INAGAWA

今回「StareReap」とのコラボレーションで、リコーのプリンティングディレクターたちは、INAGAWA の図像をサンプリングして取り込み、時には変形を加えながら、重層化していきます。さまざまなレイヤーや次元が入り混じることで、より JUN INAGAWA の世界観を深めていくことになりました。

僕が驚いたのは、StareReap で 2.5D 化した結果、
キャラクターやモチーフにリアリティが増したことです。

頭で描いていたものに存在感が生まれたんです。

— JUN INAGAWA

INAGAWA の作品は、アニメ化によって動きを得、一方において StareReap の 2.5D 印刷によって触感性や物質性が打ち出され、それぞれの方法で生命観を獲得しようとしています。オタクとストリートの感性が並列することによって生み出される作品は、若干 22 歳の INAGAWA だからこそリーチできる新しい時代の表現といえるでしょう。ぜひこの機会に RICOH ART GALLERY にて進化し続ける INAGAWA 作品をぜひご高覧いただけますと幸いです。



JUNINAGAWA 《Born Slippy》2021
UV インクジェットプリント (StareReap 2.5 プリント)、
ペイントマーカー、PVC、アルミマウント
28.8 x 50 cm

イラストだけでは表現できないことをリコーの技術で表現し、
よりリアルでライブ感のある世界観を楽しめると思います。
アニメをより楽しめる“イースターエッグ”もあります。
今までとは違う自分を見て欲しいです。

— JUN INAGAWA



JUN INAGAWA

JUN INAGAWA

アニメ原案 / クリエイター / DJ

1999年生まれ。幼い頃からアニメや漫画を好み、絵を描き始める。中学高校をアメリカのカリフォルニア州で過ごし、そこで出会ったストリートカルチャーに大きく影響を受け、2017年からLAを拠点にアーティスト活動を開始。VLONEやparadiseとのコラボレーションを果たし、帰国後にはさらに日本のパンクやテクノカルチャーを落とし込んだ作品を描き、様々なアンダーグラウンドシーンで活躍し注目を集める。

銀杏BOYZやNEIGHBORHOOD、MEDICOM TOYなどとコラボを果たし、2021年に彼自身初の画集「情報破壊 マスメディアクラッシュ」(株式会社MEAZ)が出版されている。他に、オカモトレイジ率いる奇才集団「YAGI」でDJとしても活動する。

現在、彼が原案を務めるTVアニメ「魔法少女マジカルデストロイヤーズ」の制作が決定している。

現在進行中！

『魔法少女マジカルデストロイヤーズ』オリジナルアニメプロジェクト

原案：JUN INAGAWA

アニメーション制作：パイプリーアニメーションスタジオ

JUN INAGAWA 原案によるオリジナルアニメーション作品『魔法少女マジカルデストロイヤーズ』の制作が現在進行しています。作品の舞台は2011年の秋葉原。オタクヒーローと魔法少女アナーキーが登場する物語です。ブランドとのコラボレーションや個展で注目を集めてきたアーティスト JUN INAGAWA が、初めてかかわるアニメーションプロジェクト。INAGAWA がこれまで発表してきたアート作品のコンセプトをベースに、新たなオリジナルアニメとして制作されます。

アニメーション制作はTVアニメ「五等分の花嫁」などを手掛けるパイプリーアニメーションスタジオ。鮮烈な赤が印象的なファーストビジュアル(右)には、メインキャラクターの“魔法少女アナーキー”と気になる2人の少女のシルエットが描かれています。なお、本作はこのたびTVアニメとして制作されることが決定しました。



公式サイト；<https://magical-mad.com/>



RICOH ART GALLERY



Facebook



Instagram



Reservation

RICOH ART GALLERY

リコーアートギャラリー

場所：〒104-0061 東京都中央区銀座5-7-2
三愛ドリームセンター 8F・9F

TEL：03-3289-1521

お問い合わせ：zjc_ricoh-art-gallery@jp.ricoh.com